

現代音楽芸術論

2 単位 (選択) 2 年 (前期)
宮澤 一人・教授 / 人間文化学科

【授業目的】20 世紀の芸術音楽についてはいわゆる「現代音楽」という言葉でくくられて、日常的にふれる機会が非常に少ないのが現状である。この講義では 19 世紀末から 20 世紀の芸術音楽の歴史をなぞることにより、現代という時代に表現活動を行う人間にとって必要不可欠な「現代芸術の理解」を深めることを目的とする。なおポピュラー音楽(ジャズやロック等)は取り上げない。

【授業概要】20 世紀の芸術音楽について、それぞれの重要な作曲家の特徴を学び、作品を鑑賞する。

【キーワード】機能と声の崩壊、様々な作曲技法、芸術と娯楽の対立

【履修上の注意】楽譜が読める必要は必ずしもないが、きちんと読める方が学習効果が上がるのは当然である。それ以上に「好奇心旺盛」であることを望む。

【到達目標】20 世紀の芸術音楽の流れを音楽史全体の流れの中で位置づけられる。また、その美しさを体得できる。

【授業計画】

1. 20 世紀芸術音楽の流れ
2. ドビュッシー (印象主義?)
3. ストラヴィンスキー (3 大バレエとその周辺)
4. ドイツの後期ロマン派 (煮詰まる音楽)
5. 表現主義と新ウィーン楽派 (無調の始まり)
6. ストラヴィンスキーの新古典主義 (昔帰り?)
7. 12 音技法 (無調の組織化へ向かって)
8. バルトーク (民族音楽の組織化)
9. ヒンデミットと実用音楽, および社会主義リアリズム
10. 音素材の拡大とさまざまな試み
11. 第二次世界大戦以後の音楽 (1950 年代と総音列技法)
12. 60 年代の前衛
13. 70 年代以降の前衛
14. 20 世紀音楽の非主流派?
15. 総括授業 (20 世紀音楽の総括)
16. 期末レポートの提出

【成績評価】レポートを使用する。課題は授業中に指示する。

【再試験】行わない。

【教科書】毎回プリントを配付する。その他参考書籍や CD については講義の際に紹介する。

【参考書】講義中に紹介する。

【授業コンテンツ】<http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218585>

【連絡先】

⇒ 宮澤 (マルチメディア A 棟 204, 088-656-7163, miyazawa@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜日昼休み(研究室に在室している時は、特別な場合を除いて対応可能))

【備考】

- ◇ 前期, 木曜日 1~2 講時. 音楽を静かに鑑賞できること.
- ◇ マルチメディアコースの「現代音楽芸術論」と同時開講